

## 第五次長野市総合計画等の策定に向けた職員参画

### 1 目 的

これから、「第五次長野市総合計画」や「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を始めるが、これらの計画は、今後のまちづくりの指針であることから、策定には多くの職員の参画が必要となる。

そこで、職員の意識向上を図るため、「職員アンケート」及び「職員グループトーク」を実施した。

また、アンケート及びグループトークでは、それぞれの職員の専門性やこれまでの職務経験を生かした意見を収集したことから、計画策定の基礎資料とするもの。

### 2 概 要

#### (1) 職員アンケート

- ① 対 象 者 長野市の正規職員(平成27年4月1日現在 2,845名)
- ② 回 答 者 892名(回答率31.4%)
- ③ 期 間 平成27年7月1日(水)～7月10日(金)
- ④ 実施方法 電子申請システムによるアンケート調査
- ⑤ 集計方法 エクセル、ワードによる集計
- ⑥ 結果の見方

■ 結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。

■ アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。

#### (2) 職員グループトーク

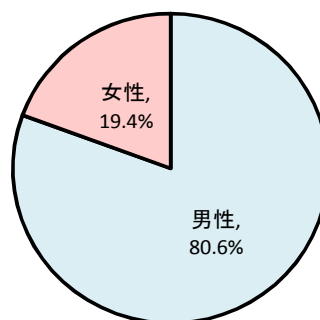
- ① 対 象 者 正規職員(5名×8グループ=40名)  
※職員アンケートの回答内容を基にグループを編成
- ② 期 間 平成27年7月21日(火)～7月31日(金)
- ③ 実施方法 グループごとのテーマに従った意見交換

### 3 実施結果

#### (1) 職員アンケート

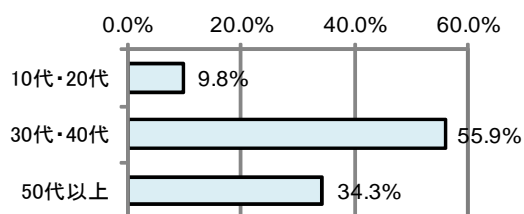
##### ① 性別

選択肢	回答数	割合
男性	719	80.6%
女性	173	19.4%
計	892	100%



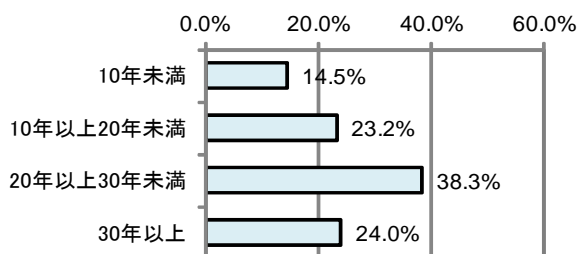
##### ② 年代

選択肢	回答数	割合
10代・20代	87	9.8%
30代・40代	499	55.9%
50代以上	306	34.3%
計	892	100%



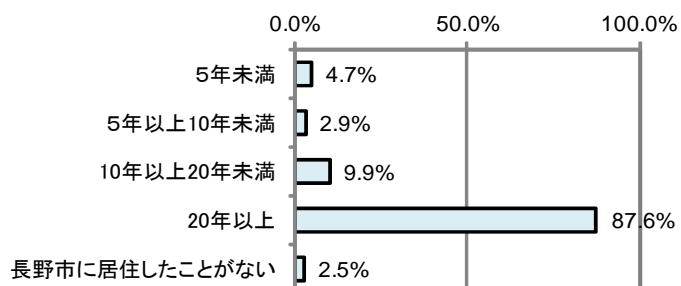
##### ③ 勤続年数

選択肢	回答数	割合
10年未満	129	14.5%
10年以上20年未満	207	23.2%
20年以上30年未満	342	38.3%
30年以上	214	24.0%
計	892	100%



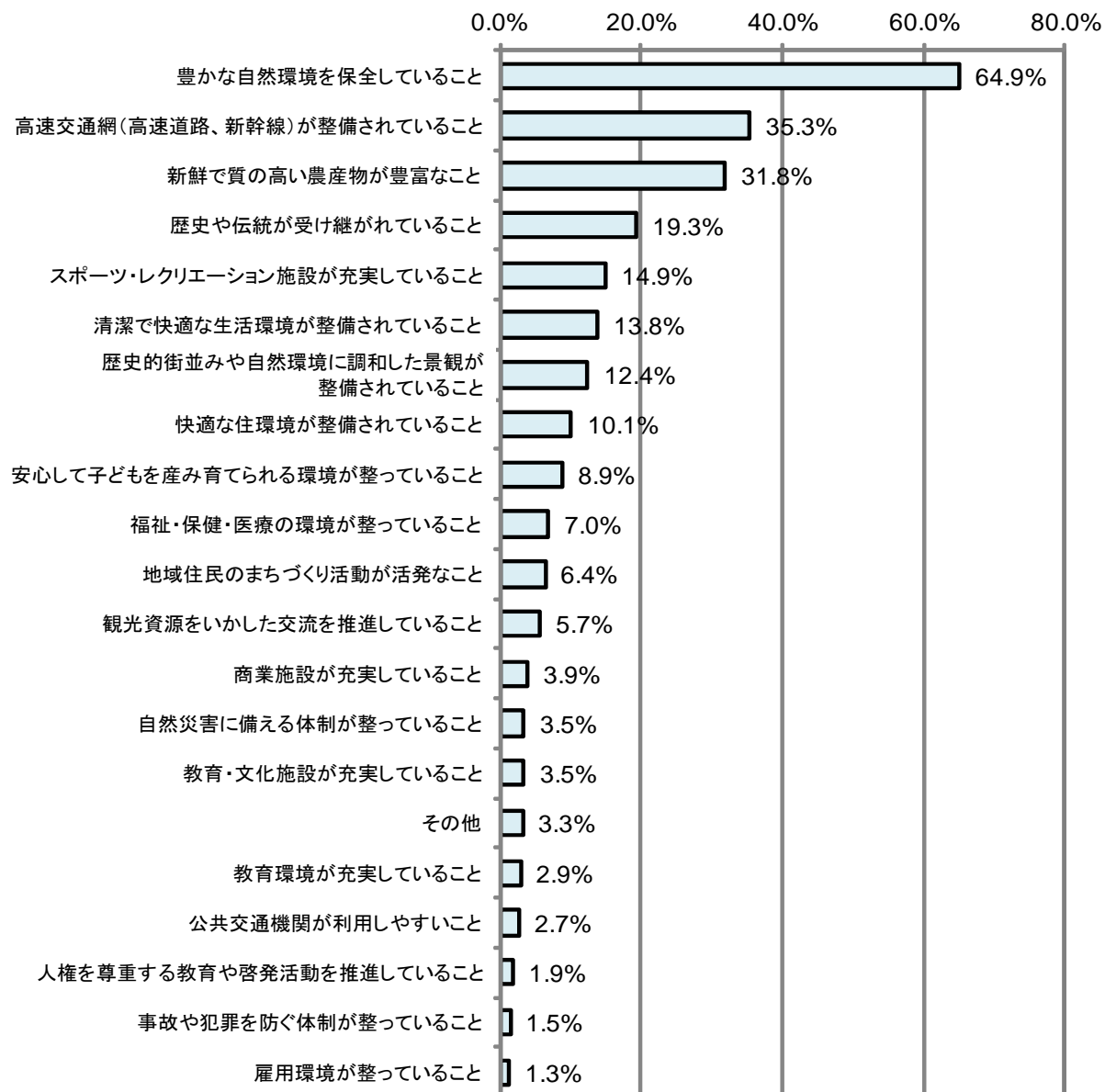
##### ④ 長野市の居住年数 (合併前の町村の居住も含めた通算の年数)

選択肢	回答数	割合
5年未満	39	4.7%
5年以上10年未満	24	2.9%
10年以上20年未満	82	9.9%
20年以上	726	87.6%
長野市に居住したことがない	21	2.5%
計	829	108%



## ⑤ 長野市の魅力

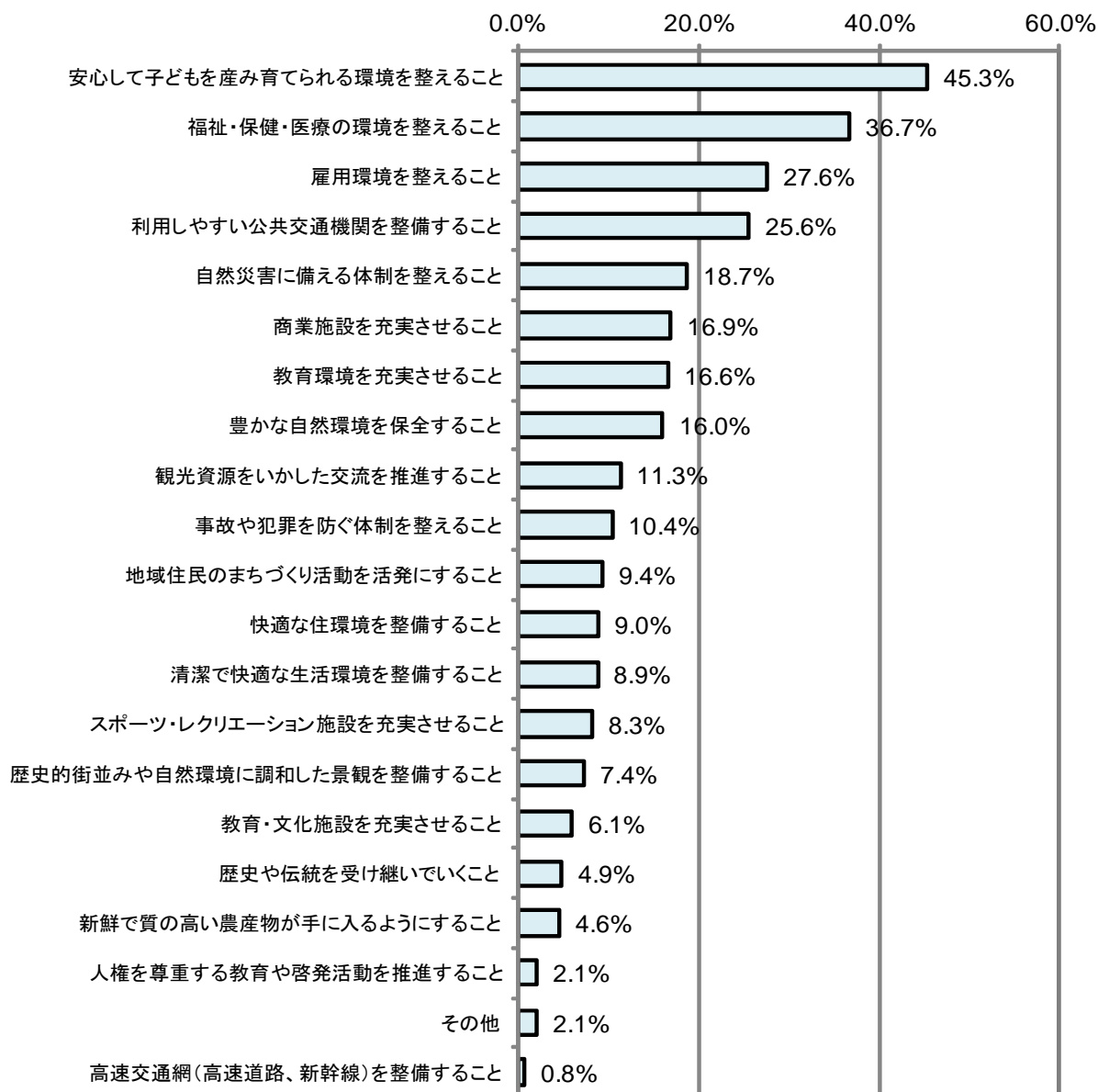
あなたは、長野市のどのようなところに魅力を感じますか。  
(3つ以内で選択してください)



## ⑥ 市民の「幸せ」のために力を入れたい取組

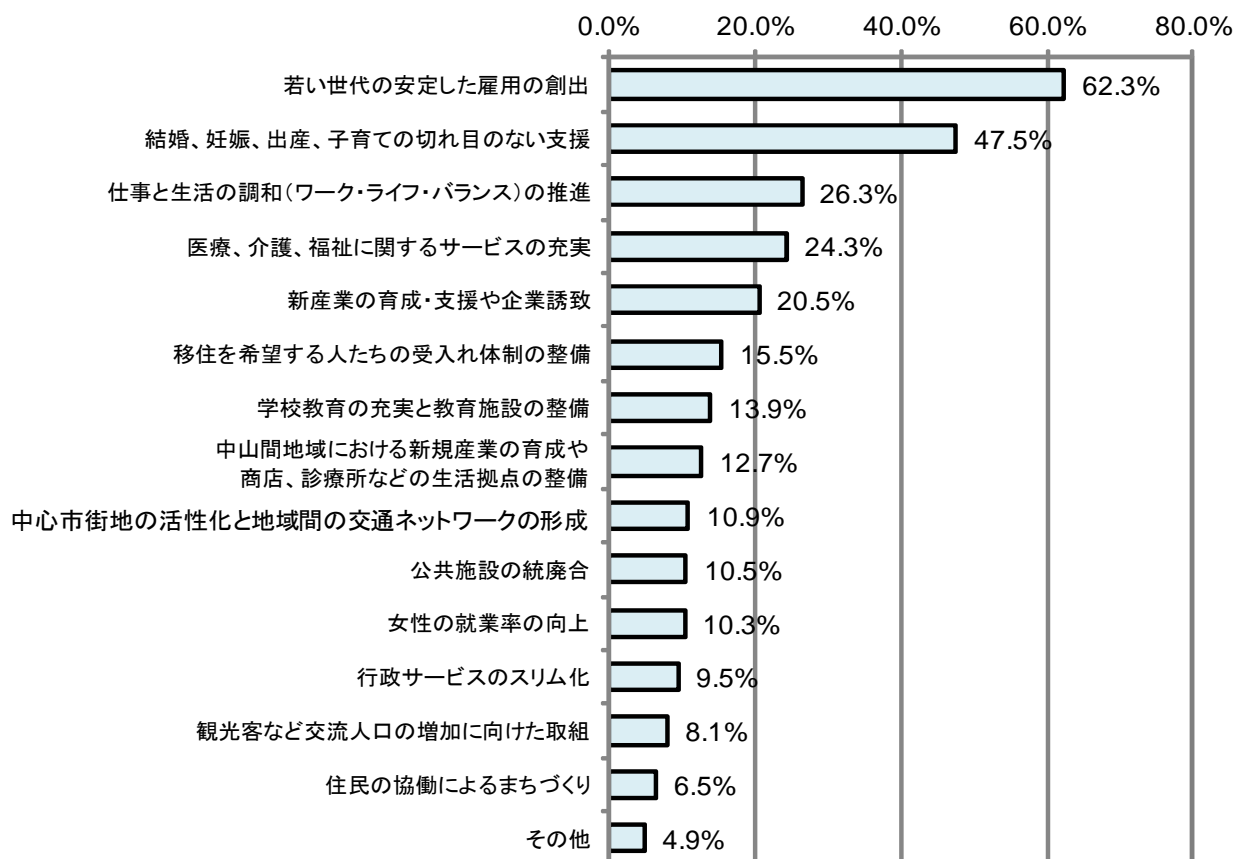
長野市に暮らす市民に、より「幸せ」な暮らしを送ってもらうために、あなたはどのような取組に力を入れたいと思いますか。

(3つ以内で選択してください)



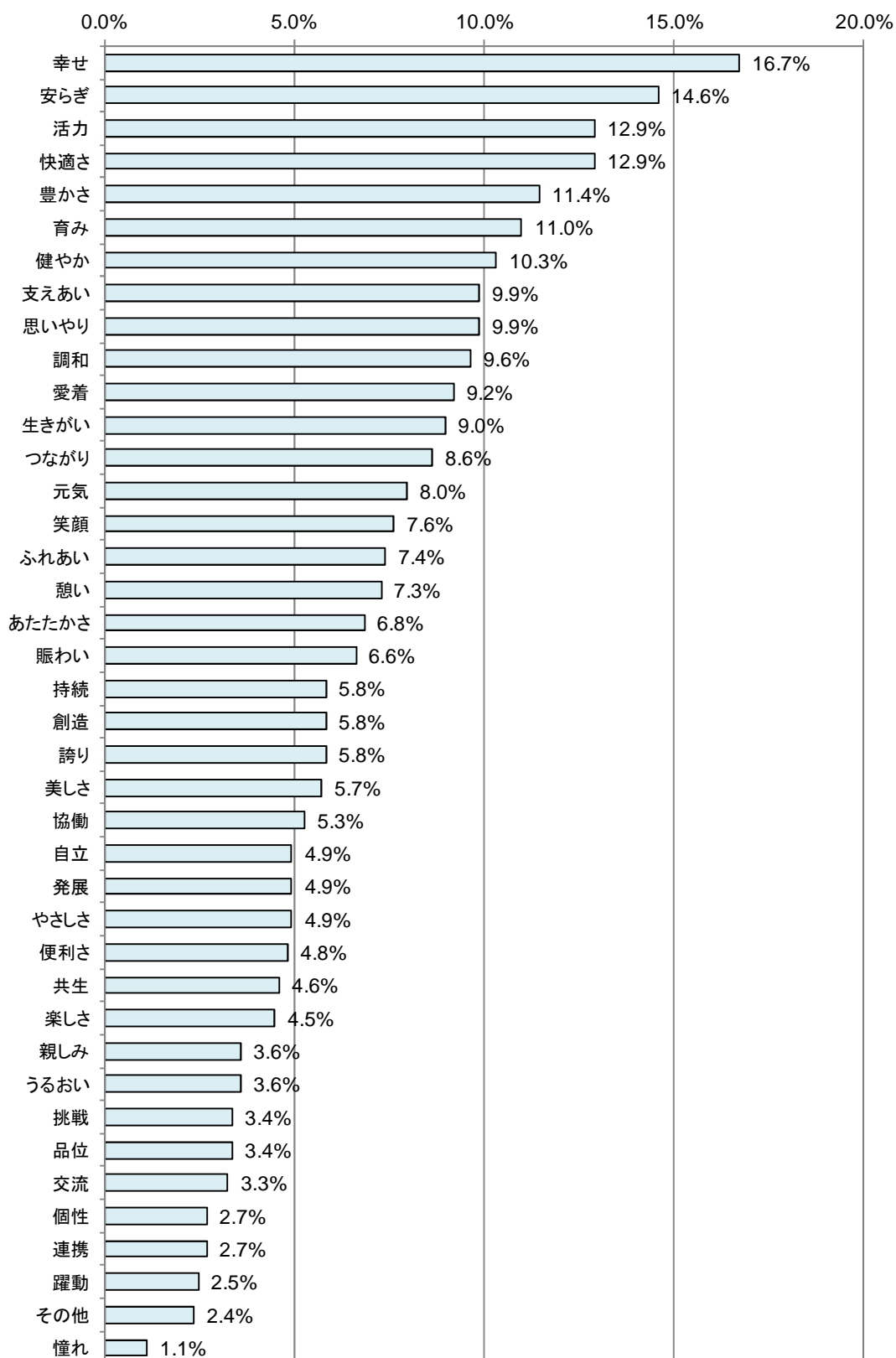
## ⑦ 人口減少に立ち向かうために力を入れたい取組

日本全体で人口が減少してきています。長野市においても、現在、約 38 万人の人口が、今後 30 年間でおよそ 8 万人減少するとの推計があります。人口が減少していく中、あなたは、どのような取組に力を入れたいと思いますか。（3 つ以内で選択してください）



⑧ 長野市が目指す「まちの姿」を表現する「言葉（キーワード）」

あなたは、今後の長野市が目指す「まちの姿」を表現する「言葉（キーワード）」として、次のうちどれがふさわしいと思いますか。  
（3つ以内で選択してください）



## (2) 職員グループトーク

### ① 行政経営分野

【テーマ】 市民が主役の元気なまち「ながの」について

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「住民自治の充実」、「役割分担」、「元気な中山間地域」

- ・地域住民一人ひとりに役割がある
- ・住民全員が「長野に住み続けたい」、「自分がまちを良くしたい」と思っている
- ・中山間地域も、中心市街地も元気で互いに役割分担している
- ・農業が再生され自給自足ができている、地域独自のブランドが確立している

理想の姿を実現するための取組

「楽しみながら・・・」

- ・自分たちの暮らしを自分たちで楽しみながらつくる、住民が楽しみながらまちづくりに参加する  
↑ 行政はそれを支援する
- ・行政の事業はコンパクトに、住民への押し付けはダメ、行政と住民が互いに育っていく形が理想

### ② 保健・福祉分野

【テーマ】 みんなが安心して健康に暮らせるやさしいまち「ながの」に向けて

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「サービスを受ける側から納税者へ」、「子どもと高齢者の触れ合い」

- ・福祉サービスを受けている人も、あらゆる方が社会活動に参加し、自立できる社会
- ・三世代同居の推進、保育園・幼稚園と高齢者施設の併設 ⇒ 子どもと高齢者の触れ合う機会の充実
- ・地域内で富が発生し、消費できる循環型社会 ⇒ 高齢者の生きがいづくりにもつながる

理想の姿を実現するための取組

「子育て支援と雇用の確保」、「地域活動の充実」

- ・子育て支援の充実と雇用の確保 ⇒ 人口減少対策につながる
- ・高齢者の介護予防などを地域活動の中に取り入れる
- ・身近な人や地元の仕事に触れるなど、幼少期からのキャリア教育の充実

### ③ 環境分野

【テーマ】 長野市の豊かな自然環境を活かしたまちづくりについて

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「環境先進都市」、「高原にぎやか都市」、「里山が豊かなまち」、「そこそこ田舎で、そこそこ都会」

- ・長野市独自のガラパゴス的な文化を築く ⇒ 市民が誇りを持てるまちづくり  
(豊かな自然と景観、湖、高原、棚田、里山、おいしい空気、街から山まで30分！など・・・長野市の魅力は多い)
- ・平日は都市で、週末は里山で暮らす(市内で2拠点居住) ⇒ 都会も自然も楽しめるのは長野市の強み
- ・志を同じくする人たちが集まれる仕組みがある(行政のバックアップ、財政的支援が必要・・・)

理想の姿を実現するための取組

「信州のさわやかなイメージを活かした取組」、「イメージを裏切らない環境づくり」

- ・市内の緑化、夏の高温対策、地球温暖化対策、電気自動車の普及、星座の観望会
- ・バイオマスエネルギーの利活用 ⇒ 産業化
- ・自然環境を守るボランティア(外部指導者を入れ、子どもや若者が参加することが大事！)  
⇒ 子どもや若者が長野市のこと(魅力、課題)を知り、考え、取組に参加することが、愛着を育む

## ④ 防災・安全分野

【テーマ】 安全で安心して暮らせるまち「ながの」に向けて

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「つながり」

- ・行政の限界がある中、人と人(地域)のつながりがあるまち
- ・災害時の互助機能がある ⇒ 高齢者と子どものつながり

理想の姿を実現するための取組

「高齢者とともに…」

- ・ひとつの敷地内での高齢者と子どもの交流
- ・中山間地域への若者の移住促進 ⇒ 高齢者が元気になる ⇒ 継続的な取組が必要
- ・広くボランティアとして高齢者が活躍

## ⑤ 教育・文化分野

【テーマ】 市民が豊かな心を育み、生きがいを持てる教育・文化環境をつくるために

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「市民が一体となり、元気で活気があるまち」

- ・誰もが地域で活躍できるまち
- ・文化やスポーツの拠点となり、市民が一体となったまち
- ・市民全体が市政に参加できる仕組みがあるまち
- ・子どもも、お年寄りも、住みやすいまち

理想の姿を実現するための取組

「まずは市民が市の魅力を知る」

- ・若い人に働く場所を知ってもらう
- ・学校給食に地元食材を取り入れる
- ・大学や図書館(蔵書)など、今ある施設や資源を最大限活用する

## ⑥ 産業・経済分野

【テーマ】 より「幸せ」な暮らしを送るための賑わいと活力あふれるまち「ながの」について

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「女性が活発に動けるまち」、「楽しんで暮らしているまち」

- ・女性が動けば人が集まり、賑わいと活力が生まれる
- ・住民同士で協力して楽しんで暮らしているまちであれば、外から見て、また来たいと思ってもらえる
- ・雇用環境が整っているまち

理想の姿を実現するための取組

「マンパワーの有効活用」、「働く場の確保」、「住民同士が協力できるシステム構築」

- ・人口を増やすには産業の盛り上がりが必要、働く場を確保して長野への定住を促進する
- ・人口減少社会にあっては、働くことができる人を有効に活用し、産業活性化につなげることが必要
- ・住民同士で協力できるシステム構築とそれに対する支援



## ⑦ 都市整備分野

【テーマ】 市民が幸せに暮らせるまち「ながの」に向けた都市整備について

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「アクセス」、「人・自然・歴史・スポーツ・観光」

- ・日本の真ん中にある長野市へ、どこからでも行き来しやすいアクセスが整備されている
- ・拡散した「まち」から、コンパクトな「まち」へ
- ・歴史が積み重なって形成された「まち」の地域資源、「人」、「歴史・文化」(ソフト面)に特化した都市整備

理想の姿を実現するための取組

「自転車や歩きで暮らせる生活圏」、「小さな拠点と核を公共交通機関でつなぐ」、「保存と利便性」

- ・それぞれの地域で、子どもから高齢者まで、歩いて暮らせる生活圏を形成する(小さな拠点)
- ・中核となるエリアと生活圏を公共交通機関でつなぎ、「まち」の拡散を防ぐ(コンパクトなまち)
- ・まちの核の利便性を高めつつ、文化や歴史などが残るエリアは徹底的に保存する(保存と利便性のバランス)

## ⑧ 人口減少対策

【テーマ】 若者が戻って来なくなるまちづくりについて

理想のまちの姿(10年後のキーワード)

「豊かな自然と都市機能」、「アクセスしやすいサードプレイス」

- ・中心市街地周辺の利便性と中山間地域での本格的田舎暮らしの両立など…多様な生活スタイルを実現するまち
- ・社会人がボランティア活動や地域活動に参加しやすい環境があり、そのことが出会いにつながるまち
- ・生涯学習やボランティア・地域貢献活動に、「いつでも」、「気軽に」参加できるまち
- ・しごとの他に楽しみや生きがいを持つ、希望を実現できるまち

理想の姿を実現するための取組

「魅力あるしごとの創造」、「若い世代へのPRの充実」、「活動の場づくり」

- ・大学・研究機関と連携し、クリエイティブで魅力ある職をつくる
- ・子どものうちから、仕事を体験・見学し、魅力的な職があることをPR
- ・若い女性、学生、保護者を対象に長野市の「暮らしやすさ」、「働きやすさ」、「子育てしやすさ」をアピール
- ・大学で年齢に関係なく受講できる講座(職業能力訓練)を実施、生涯学習センターをボランティア活動の窓口にする